

2024年度 環境経営レポート



対象期間：2024年3月～2025年2月
発行日：2025年4月28日

KS キムラシール株式会社

〔営業本部・伊丹工場〕 〒664-0842 兵庫県伊丹市森本1丁目8番10号
TEL 0797-77-7091 FAX 0797-77-7094
〔本社〕 〒665-0022 兵庫県宝塚市野上6丁目9番7号
TEL 0797-77-7092 FAX 0797-77-7093
〔東京営業所〕 〒116-0014 東京都荒川区東日暮里2丁目15番11号
コスモグランズ東日暮里1F
TEL 03-5604-9884 FAX 03-5604-9885



目次

1.組織概要	…p.2
・会社概要	
・環境経営実施体制	
2.環境経営方針	…p.4
3.環境負荷の実績	…p.5
4.環境経営目標及び実績	…p.5～6
5.環境経営計画 及び 取組結果とその評価	…p.7
6.取組内容	…p.8
7.環境関連法規等の遵守状況の評価の結果	…p.9
8.代表者による全体の評価と見直し・指示	…p.9
9.定例環境教育	…p.10～12



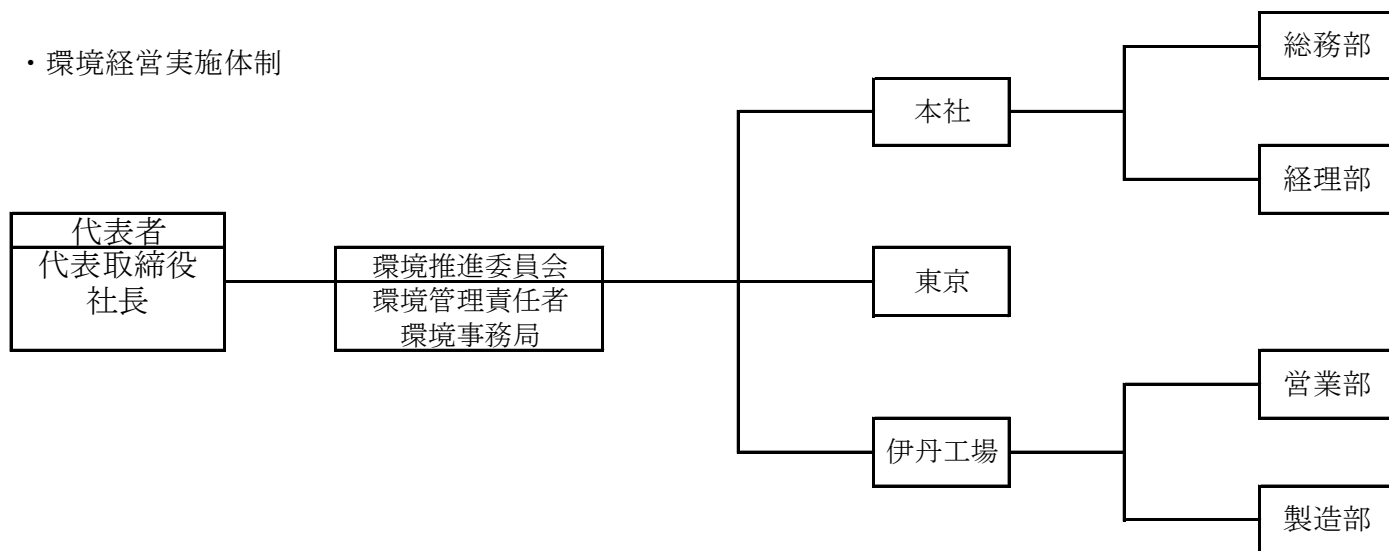
1. 組織の概要

- ・ 名称
キムラシール株式会社
代表取締役社長 木村 彰宏
- ・ 所在地
本社 〒665-0022 兵庫県宝塚市野上6丁目9番7号 TEL 0797-77-7092
伊丹工場 〒664-0842 兵庫県伊丹市森本1丁目8番10号 TEL 0797-77-7091
東京営業所 〒116-0014 東京都荒川区東日暮里2丁目15番11号コスモグランズ東日暮里1F
TEL 03-5604-9884
- ・ 設立
1992年（平成4年）7月
- ・ 資本金
1,500万円
- ・ 環境管理責任者及び連絡先
環境管理責任者 川人 優亮 TEL:0797-77-7091 FAX:0797-77-7094
- ・ 事業内容
包装機械の開発・設計、包装機械の生産、包装機械の販売・アフターサービス
主要製品:KSバンドシーラ、印字装置
- ・ 事業の規模
主要製品生産量 KSバンドシーラ 124台（2024年度） 2024.03～2025.02月の台数
印字装置 69台（2024年度） 2024.03～2025.02月の台数

	本社	伊丹工場	東京営業所	合 計
従業員	3	9	1	13
延べ床面積(m ²)	53.28	459.85	77	590.13
敷地面積(m ²)	-	248.36	-	248.36

エコアクション21対象従業員数（本社、伊丹工場、東京） 13名
- ・ 事業年度
3月～翌年2月
- ・ 取引納入先
全国450社以上
- ・ 主力輸出先
米国、中国、インドネシア、タイ、ベトナム、シンガポール
- ・ 所属団体
一般社団法人 日本包装機械工業会
- ・ 認証・登録の対象範囲
登録組織名: キムラシール株式会社
対象事業所: 本社、伊丹工場、東京営業所
活動: 包装機械の開発・設計、包装機械の生産、包装機械の販売・アフターサービス

・環境経営実施体制



役割・責任・権限	
代表者 代表取締役社長	- 環境経営に関する統括責任 - 効果的で必要十分な実施体制の構築 - 環境管理責任者の任命及び各自の役割・責任・権限を定め全従業員へ周知 - 環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間、技能、技術者を準備 - 経営における課題とチャンスの明確化 - 環境経営方針の策定・見直し及び全従業員へ周知 - 環境経営目標・環境経営計画書を承認 - 代表者による全体の評価と見直し・指示を実施 - 環境経営レポートの承認
環境管理責任者	- 環境経営システムの構築、実施、管理 - 環境関連法規制等の取りまとめ表を承認 - 環境経営目標・環境経営計画書を確認 - 環境関連の外部コミュニケーションの窓口 - 緊急事態対応手順のテスト、訓練の指導及び総括 - 環境活動の取組結果を代表者へ報告 - 環境経営レポートの確認
環境事務局 環境推進委員会メンバー	- 環境管理責任者の補佐 - 環境負荷の自己チェック及び環境への取組の自己チェックの実施 - 環境経営目標、環境経営計画書原案の作成 - 環境活動の実績集計 - 環境関連法規制等取りまとめ表の作成、遵守評価の実施 - 環境教育訓練計画の作成と実施の管理 - 環境経営レポートの作成、公開（事務所への備付けと地域事務局への送付）
環境推進委員会	- 環境経営目標、環境経営計画書の審議 - 環境活動の実施状況の評価、見直し - 環境教育の内容検討、実施結果の評価 - 特定された項目の手順書作成（緊急事態への対応を含む）
部門長（部長、工場長） 営業部 製造部 総務部兼経理部	- 自部門における環境経営システムの実施 - 自部門における環境経営方針の周知 - 自部門の従業員に対する教育訓練の実施 - 自部門に関連する環境経営計画の実施及び達成状況の報告 - 特定された項目の運用管理 - 緊急事態対応手順のテスト、訓練を実施、記録の作成 - 自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施
全従業員	- 環境経営方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚 - 決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

2. 環境経営方針

ごあいさつ

キムラシール株式会社は、国内・外を活動範囲とし、包装機械を製造・販売する企業です。平成4年の設立以来、多くのお客様から絶大なる信頼とご支援を賜りながら堅実な経営を営み、お陰様で今日を迎えるに至りました。

この度当社は、エコアクション21に基づく環境経営システムを構築し運用開始することによって、地球環境に優しい企業として、新たな一步を踏み出しました。

これを全社員に周知徹底し、環境意識を高め、継続的に環境負荷の低減に取り組んで行くことを宣言します。

環 境 経 営 方 針

＜環境経営理念＞

キムラシール株式会社は、ますます深刻化する地球温暖化や今後予想される地下資源の枯渇への対応が人類共通の重要課題と考えており、本業である包装機械の製造・販売などのすべての事業活動を通じて、地球温暖化問題への取り組みや地域の環境活動に自主的・積極的に取り組みます。

活動内容は、環境経営における課題やチャンスを定期的に見直すことで明確にし、効率よく、無駄なく、タイムリーに従業員一丸となって継続的に改善活動に取り組んでまいります。

＜環境保全への行動指針＞

- 1 . 環境関連法規制や当社が約束したことを遵守します。
- 2 . 創意工夫による省エネルギーにより二酸化炭素排出量の削減に努めます。
- 3 . 事業活動で発生する廃棄物は、その発生を抑制するとともにリサイクルの推進に努めます。
- 4 . 適正な利用により水使用量の削減に努めます。
- 5 . 環境に配慮した製品開発の促進に努めます。
- 6 . 安心で安全な商品を効率よくタイムリーにお客様にお届けします。

制定日：2019年8月1日

代表取締役 木村 彰宏

3. 主な環境負荷の実績

項 目	単位	2023年度	2024年度
二酸化炭素排出量	kg-CO ₂	28,032	34,849
電力(従量電灯)	k Wh	13,412	12,871
電力(低圧電力)	k Wh	3,889	3,952
軽油	L	7,166	9,715
灯油	L	781	912
廃棄物排出量	kg	426	522
一般廃棄物	kg	323	387
産業廃棄物	kg	103	135
水使用量	m ³	75	73
環境配慮型製品の販売	台	67	60

4. 環境経営目標及びその実績

(1) 中期目標

年 度 項 目		2023年度 基準年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
I. 二酸化炭素 排出量削減	kg-CO ₂	28,032	27,780	27,745	27,491	27,238
	対基準	-	△0.714%	△1%	△1%	△2%
電力使用量 削減 (従量電灯)	kWh	13,412	12,876	12,741	12,607	12,473
	kg-CO ₂	5,644	5,456	5,415	5,358	5,301
電力使用量 削減 (低圧電力)	kWh	3,889	3,753	3,714	3,694	3,675
	kg-CO ₂	1,637	1,576	1,578	1,570	1,562
軽油 使用量削減	L	7,166	7,166	7,166	7,094	7,022
	kg-CO ₂	18,805	18,805	18,805	18,617	18,429
灯油 使用量削減	L	781	781	781	781	781
	kg-CO ₂	1,946	1,946	1,946	1,946	1,946
II. 廃棄物排出量						
一般廃棄物 削減	kg	323	320	320	320	320
	対基準	-	△1%	△1%	△1%	△1%
産業廃棄物 削減	kg	103	103	103	103	103
	対基準	-	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
III. 水使用量 削減	m ³	75	75	75	75	75
	対基準	-	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
IV. 環境配慮型 製品の販売	台	67	67	67	67	67
	対基準	-	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

- 注1) 都市ガスは、微量のため二酸化炭素排出量に含めない。
- 注2) 本社・伊丹の電力の二酸化炭素排出係数(調整後)は、2023年度関西電力実績値の0.419kg-CO₂/kWhを使用。
- 注3) 東京営業所の電力の二酸化炭素排出係数(調整後)は、2023年度東京電力実績値の0.431kg-CO₂/kWhを使用。
- 注4) 化学物質を使用していないため、化学物質に関する目標は設定していない。

○ 2024年度の実績（全社）

年 度 項 目		基準	対象期間における実績			
		2023年度	(2024年3月～2025年2月)			
		(3月～2月)	目標	実績	達成度	評価
I．二酸化炭素 排出量削減	kg-CO ₂	28,032	27,780	34,849	79.7%	×
	対基準		△0.714%	+24.3%		
電力 使用量削減 (従量電灯)	kWh	13,412	12,876	12,871	100.0%	○
	kg-CO ₂	5,644	5,456	5,417		
	対基準		△4.0%	△4.0%		
電力 使用量削減 (低圧電力)	kWh	3,889	3,753	3,952	95.0%	△
	kg-CO ₂	1,637	1,576	1,665		
	対基準		△4.5%	+1.7%		
軽油 使用量削減	L	7,166	7,166	9,715	73.8%	×
	kg-CO ₂	18,805	18,805	25,496		
	対基準		0.0%	+35.6%		
灯油 使用量削減	L	781	781	912	85.6%	×
	kg-CO ₂	1,946	1,946	2,273		
	対基準		0.0%	+16.8%		
II．廃棄物排出量						
一般廃棄物 削減	kg	323	320	387	82.6%	×
	対基準		△1.0%	+19.8%		
産業廃棄物 削減	kg	103	103	135	76.4%	×
	対基準		0.0%	+30.9%		
III．水使用量 削減	m ³	75	75	73	102.7%	○
	対基準		0.0%	△2.7%		
IV．環境配慮型 製品の販売	台	67	67	60	89.6%	×
	対基準		0.0%	△10.4%		

注)評価欄にて、○：達成（100%以上）、△：やや未達成（95%～100%未満）、×：未達成（95%未満）

○ 2024年度の実績（サイト別）

項目 単位		本社・伊丹工場					東京営業所				
		基準	目標	実績	達成度	評価	基準	目標	実績	達成度	評価
Ⅰ．二酸化炭素 排出量削減	kg-CO ₂	16,428	16,176	22,157	73.0%	×	11,605	11,605	12,693	91.4%	×
	対基準		△1.53%	+34.9%				0.0%	+9.4%		
電力 使用量削減 (従量電灯)	kWh	11,382	10,927	10,894	100.3%	○	2,030	2,036	1,977	103.0%	○
	kg-CO ₂	4,769	4,578	4,564			875	878	852		
	対基準		△4.0%	△4.3%				0.0%	△2.6%		
電力 使用量削減 (低圧電力)	kWh	3,251	3,105	3,196	97.1%	△	638	638	756	84.4%	×
	kg-CO ₂	1,362	1,301	1,339			275	275	326		
	対基準		△4.5%	△1.7%				0.0%	+18.5%		
軽油 使用量削減	L	3,182	3,182	5,328	59.7%	×	3,984	3,984	4,388	90.8%	×
	kg-CO ₂	8,350	8,350	13,981			10,455	10,455	11,515		
	対基準		0.0%	+67.4%				0.0%	+10.1%		
灯油 使用量削減	L	781	781	912	85.6%	×	該当なし				
	kg-CO ₂	1,946	1,946	2,273							
	対基準		0.0%	+16.8%							
Ⅱ．廃棄物排出量											
一般廃棄物 削減	kg	299	296	363	81.6%	×	24	24	24	100.0%	○
	対基準		△1.0%	+21.4%				0.0%	0.0%		
産業廃棄物 削減	kg	103	103	135	76.4%	×	該当なし				
	対基準		0.0%	+30.9%							
Ⅲ．水使用量 削減	m ³	69	69	69	100.0%	○	6	6	4	150.0%	○
	対基準		0.0%	0.0%				0.0%	△33.3%		

注）環境配慮型製品の販売は、全社目標とする。

5. 環境経営計画及び取組結果とその評価

(達成狀況欄)

7/11

2024年度 EA21 環境取り組み内容

<EA21取組>		<全社員取組>	
①:電力 (1) 非稼働時間ブレーカOFF。(故障注意) ※ ・自動販売機、温水器 (2) 定例ミーティングの完全在宅化。(質の向上) (3) 業務効率化による残業時間低減。(能力向上) (4) 生産調整: 月3日(200V) ・冷暖房 室温管理。(エアコン) ※ ・EV使用ルール実施。 ・不要照明の消灯 ・PC電源設定 ・不要電気機器コンセントを抜く。 ※ (5) 月に一回エアコンのフィルター清掃 ②:化石燃料 (6) エコドライブ10の取組 (7) 各車 毎月の燃費監視・報告 (8) 石油ストーブ 芯メンテ。 ・灯油の適正使用。 ※ ・ストーブ更新 ③:廃棄物 (9) 分別・再資源化の継続。 (10) 分別を全社員で取組む。 (11) 古紙(紙の使用量)の低減。 ※ (12)ベトナムからくる梱包 ④:水使用 ・節水意識の向上と日常的な節水。 ⑤:環境配慮型製品販売 (13) 環境配慮製品の販売促進する。 ⑥:教育・訓練の計画・実施 ・毎月MTGでの「教育・啓発活動」実施。 ※ ・防災訓練の実施。 ⑦:その他。 ・エアコン自社簡易点検。		左記の項目を以下の手順で実行する。(要約) ←最終退社者が各階指定100V・200VブレーカOFF。(忘れ注意) ←3連休、長期休暇はブレーカOFF。18時前後に温水器のブレーカOFF ←在宅Web会議継続。(全員 質の向上を意識・実施) ←個々の能力向上・改善工夫の継続。 ←業務効率向上と業務のやり繰り工夫。 ←冷房28℃・暖房20℃ (各自監視。逸脱時は気付いた者が是正。) 19時以降は消す ←「開」放置、荷物積載放置などムダ使用厳禁。工夫で回数抑制。 ←不要照明の消灯徹底。(目安 1分以上離室ならOFF) ←各自節電モード設定。(目安「画面」15分。「スリープ」30分) ←使用頻度小の電気機器。使用時のみコンセント挿入。 ←6月～10月。(当番制・清掃手順書作成) ←環境にやさしい運転方法10項目の周知徹底。 ←軽油の使用量を記録・月初すみやかに提出。 ←使用季節終了時にメーカー推奨メンテを実施。(新品状態維持) ←暖房20℃を目安に調整。換気・火の元注意の周知・徹底。 ←組立室のファンヒーターをストーブに更新。 ←廃棄物・再資源化物の置き場所、分別方法の各自理解・徹底。 ←各自分別状態の確認と置き場の整理。 ←古紙低減意識の向上。 ←緩衝材の量、梱包時の段ボールを再利用。 ←節水意識向上の継続。過剰節水での不衛生に注意。 ←脱気・ガス置換シール機(KSD/V/NV/GF)の販促活動UP。 ←年に1回。	
		作成日: 2024年 3月 7日 改定日: 2024年 5月 10日	
		環境責任者	作成者

7. 環境関連法規等の遵守状況の評価の結果

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りである。

遵守評価日：2025年2月26日

適用される法規制	遵守すべき要求事項	遵守評価	適用事業所
廃棄物処理法	・一般廃棄物、産業廃棄物の適正処理 ・収集・運搬・処理業者の許可の確認及び適切な契約 ・保管場所の適正管理 ・マニフェストの交付・保存・確認・交付状況等報告書の提出	遵守	全社
フロン排出抑制法	フロン使用機器の確認と自主定期点検と記録 ＊適用機器・・・業務用エアコン	遵守	全社
道路運送車両法	・日常点検 ・定期点検 ・点検/設備記録、保存	遵守	全社
消防法	火災対応手順書の作成、避難訓練の実施、消火設備・火災警報設備の点検整備、避難設備の維持	遵守	全社

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されていることを確認しました。
なお、環境法規制等への違反、訴訟、環境上の苦情等も過去3年間ありませんでした。さらに、関係当局より違反等の指摘もありませんでした。

8. 代表者による全体の評価と見直し・指示

エコアクション21への取組が今年で5年が経ちました。
社内で取り決めたルールやエコアクション21の取組に対して従業員全員で日々取り組んでいます。非稼働時間の電力低減を取り組みましたが時間外や休日における業務が増え、目標には届かない結果となりました。また、軽油に関しても営業活動において移動距離の増加も見られ全体を通して二酸化炭素排出量も大きく下回る結果となりました。人員不足の状況でありましたが、そのような中でも環境の為に十分な取組は実施できていると感じています。
来期では人員の増加や販売・生産の増加と従業員の増員を計画するうえで環境負荷への増加がみこまれます。引続き非稼働時間の低減を目標に掲げ、毎日の業務において効率よく業務を行うことで全社員の環境負荷や業務に取り組む姿勢を見直し再認識することで環境資源の使用を抑制することにつながると思います。
引き続き環境負荷低減への取組に従業員一同邁進してまいります。
尚、「環境経営方針、環境経営目標及び環境経営計画、実施体制」については、見直しの変更の必要はありません。

2025年4月18日
代表取締役 木村 彰宏

9.定例環境教育

- ・環境経営方針・経営目標・経営計画の周知
- ・環境関連情報（環境負荷データの推移図及び環境に関するトピックスなど）を、毎月ウェブ方式による定例ミーティングや社内掲示板にて、内部コミュニケーションを充実化させています。

2024年度 実績

	お題目
各月	環境経営目標 月々の達成状況・考察。
3月	
4月	世界中での環境問題について
5月	環境に優しい行動をしよう
6月	エアコンの正しい使い方
7月	夏バテと熱中症に注意
8月	もしもの備え
9月	上半期のまとめ
10月	節水について
11月	節電
12月	廃棄物に分類
1月	地震
2月	避難訓練（地震）

※各資料は、定例ミーティング議事録に保存

以下、一例

節電

4.10.31

節電はどうして必要？

停電を防ぐことや社会の動きを止めないための意味があることに加えて、温暖化防止という目的もあります。

電気の使用量が過剰になると、供給不測の状態になり停電のリスクが生じます。これは一般家庭だけではなく企業にも影響があるため、節電は社会的にも重要な意味を持ちます。

また、電気を生産するために使用される石油・石炭・天然ガスなどの資源は限られており、大切に使うことが求められています。



地球温暖化防止への貢献

電力の多くは化石燃料を燃焼して発電されており、その過程で大量の二酸化炭素が排出されます。節電を実施することで、これらの温室効果ガスの排出を減少させ、地球温暖化の進行を抑えることができます。地球温暖化防止のためには、日常生活の中での節電意識が重要です。



節電方法

① 照明の工夫

LED照明の導入は大きな効果をもたらします。従来の蛍光灯などと比べてエネルギー効率が高く、寿命も長いので電力消費を大幅に削減できます。また、照明はこまめに消すだけで節電に繋がります。



★★★キムラシールの全従業員取組事項★★★

- 不要照明 ←不要照明の消灯徹底（目安 1分以上離室ならOFF）
- PC電⌚ ←各自節電モード設定（目安「画面」15分。「スリープ」30分）
- 不要電気 ←使用時のみコンセント挿入で待機電力OFF
- 非稼働時 ←最終退社者が各階指定100V・200VブレーカOFF
- 自販機（長期休暇はブレーカFF）
- 温水器（18時以降ブレーカOFF）



② エアコンの工夫

エアコンの設定温度を冷房は**28℃**、暖房は**20℃**にすることで消費電力を抑えることができます。
エアコンのフィルター清掃を定期的に行うことも重要です。
フィルターが汚れているとエアコンの効率が低下し、余分な電力を消費することになります。



★★★キムラシールの全従業員取組事項★★★

定例ミーラ← 在宅Web会議継続(全員 質の向上を意識・実施)
業務効率← 個々の能力向上・改善工夫の継続
冷暖房 室← 冷房28℃・暖房20℃
19時以降、エアコンは消す
月に一回エア← 6月～10月

③ 冷蔵庫・冷凍庫の使い方の工夫

冷蔵庫の節電は、食材を詰め込み過ぎないことが大切です。
全体を冷やすのにより多くの電気を必要とします。
逆に冷凍庫は、食材が少ないほうが多くの電気を使います。



常に適量の食材を入れるようにするのがいいです。

節電は、停電の防止や社会的な動きを維持するために必要なだけでなく、温暖化防止や資源の節約につながる重要な行動です。
節電の重要性を理解し、共通の目標を持ち、具体的な節電方法を実践しましょう。